



VALUE POINTER

SCAT研究奨励金を受けて

今回は、令和元年度SCAT研究奨励金採用の中根 拓末さんをご紹介します。

中根さんは、令和4年9月福井大学大学院工学研究科博士課程を修了、博士号を取得。現在は、岐阜大学でご活躍されています。

中根 拓末 氏

Takumi Nakane

岐阜大学 工学部

機械工学科 助教

(デニユアトラック)



モットー：為せば成る

〈略歴〉

令和2年3月：福井大学 大学院工学研究科

情報・メディア工学専攻

博士前期課程 修了

令和4年9月：福井大学 大学院工学研究科

総合創成工学専攻

博士後期課程 修了

令和4年10月：岐阜大学 工学部 機械工学科

助教 (デニユアトラック)

タビジョン分野へ応用する研究にも従事していました。具体的には、テンプレートマッチングや前方車両のリアランプ追跡、一人称視点カメラを用いた点字ブロック検出などを最適化問題として扱い、GAを用いて課題解決に取り組みました。

Q. 研究奨励金を受けて良かったことなどお聞かせください

研究奨励金による援助のおかげで、修士課程まで行っていたアルバイトの時間を研究に割り当てることができました。限られた時間の中で少しでも研究に取り組む時間を増やすことができたのは大変ありがたいことでした。また、様々なプレッシャーがある博士課程において金銭的な不安を取り除けたことは大きな助けとなりました。この場を借りて、改めて御礼申し上げます。

Q. 現在の仕事を志望されたきっかけは

研究室での研究活動は、大変なことも数多くありましたが、実験で良い結果が出たときや論文が受理されたときの喜びはそれ以上であり、非常にやりがいのあるものであったため、今後も続けていきたいとの思いで研究職を希望しました。また、GAに関する研究を続けるためには、研究テーマをある程度自由に設定できる大学教員の方が良いと考え、就職活動を行っていました。その中で、自分の出身地であり、地元企業と多くの共同研究を行っている岐阜大学に魅力を感じ、志望することとなりました。

Q. 在学時は何の研究をされていましたか

最適化手法の1つである遺伝的アルゴリズム (GA) に関する研究に取り組んでいました。GAは解候補を遺伝子として表現し、複数の遺伝子に対して生物の進化の過程から着想を得た操作を繰り返し適用することで最適化を行う手法です。私は最適化中に得られる情報を有効活用することで、GAの最適化性能を向上させる手法を提案しました。また、GAをコンピュー

Q. 現在の仕事についてお聞かせください

機械工学科の教員としての活動に加えて、航空宇宙生産技術開発センターに所属し、研究を行っています。センターでは航空宇宙産業の生産性向上を目的として、生産技術に焦点を当てた教育および研究を行っています。企業との共同研究が数多く行われており、その中で私は外観検査に関するプロジェクトに

参加しています。

Q. 現在の仕事の魅力は何ですか

企業との共同研究では研究成果が実際に運用されるため、自分の研究成果が実際に社会の役に立っていることを実感できる点がとても魅力的だと感じています。実運用のための要求は厳しいものですが、その分やりがいを感じながら研究活動に従事しています。また、自分の興味に基づいた研究も並行して取り組んでいる点も大学教員ならではの魅力だと感じています。

Q. 現在の仕事で苦勞されていることはありますか

学生時代は自分の研究だけに集中して取り組むことができたが、現在は様々なタスクが入り込んでくるため、時間配分に苦勞しています。さらに、それらを基本的には自分一人で判断し、処理しなければならない点にも苦勞しています。自分よりもはるかに忙しいにも関わらず研究成果を上げている周りの先生方を改めて尊敬するとともに、自分も早くそうなれるように努力していきたいと思っています。また、学生時代とは異なる学科の所属となったため、覚えるべきことがたくさんあることも、おもしろくもあり大変だとも感じています。早く一人前になれるように、日々勉強していきたいと思います。

Q. 今、興味もっていることや趣味などお聞かせください

現在は深層学習に興味を持っています。多くの分野において、深層学習はこれまでの手法とは一線を画す性能を示しており、研究者としては無視できないトピックであると強く感じています。深層学習は驚くべきスピードで発展しているため追いつくのは大変ですが、今後の研究活動に活かせるように日々勉強しています。趣味はテレビゲームで、最近は格闘ゲームにハマっています。対戦相手との駆け引きや読み合いがとても楽しいです。

Q. 将来の目標についてお聞かせください

異なる学科でありながら採用していただけた機会を活かし、異分野融合を武器とした研究者になりたいです。これまでに培ってきた最適化やコンピュータビジョンの知識を機械工学に取り入れることで、これまでにない新しいアプローチを提案していきたいと考えています。また、自分の研究に対する姿勢から、指導学生に研究の面白さを伝えられるような研究者でありたいと思っています。